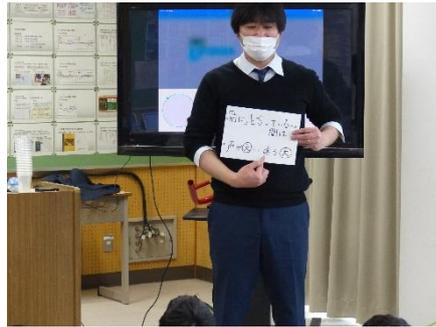




卒業記念授業

3月2日(火)。宮城教育大学附属小学校の上杉泰貴先生と遠藤宏紀先生をお迎えして、もみじ学級のみなさんとプログラミングの学習をしました。

最初は、卒業する6年生の4名の皆さんと学習することを考えていたのですが、折角の機会なので、もみじ学級の皆さん全員に参加してもらいました。学習に必要な iPad やスフィロ (ボール型のロボット) は附属小学校から持参していただき、約1時間、プログラミングの基礎から実際の操作まで、体験しながら楽しく学習することができました。



附属小学校の先生方からは子供たちの話の聞き方の立派さや、「ロボットは命令すれば動く！」などの気づきのすばらしさをとても褒めていただきました。また、短時間の授業でも、すぐに操作を覚えたり、教えてもらったことを応用したりすることができる子供たちの姿に感心しました。お二人の先生方の優しい雰囲気もあって、終始楽しい時間を過ごすことができました。

上杉先生、遠藤先生、お忙しい中ありがとうございました。



それに先だって、2月22日(月)から2月26日(金)までは、6年生の1組から4組までで算数(数学)の授業を行わせていただきました。冒頭

- ・教室は間違ふところだ
- ・ノートは創るもの

を確認し、1年生で勉強した足し算、そしてブロックを使つての説明、そして、問題場面を天気予報として-(マイナス)の導入と授業を進めました。6年生の4クラスに共通して感じるのは、授業で話を聞く構えがきちんとできていること、つぶやきがあり、発問にしっかり考えること、指名されても嫌がらずに答えたり、黒板に書いてくれたりしたことです。

授業後、担任の先生方から評価カードに記入した感想を含めてノートを全員分見せていただきました。ノートを見ると、自分でメモをしたり、数直線を書いたり工夫してノートを創っていることが分かりました。1時間でここまでできるとは私も想像以上でした。

改めて子供たちに力が付いていることを感じるとともに、ここまで指導していただいた、学年主任の菅原浩一先生はじめ担任の先生方の指導の積み重ねの成果も感じることができました。

そして、今回も自分自身の教材研究の足りなさを教えてくれたのが子供たちでした。今回の授業の振り返りをしっかり行い、次回実践する機会があれば生かしたいと思います。

(文責：手代木)